

白鳥地域振興計画



令和3年12月

郡 上 市

白鳥振興事務所

目次

第1章 基本的事項

- (1) 白鳥町の概況 1
- (2) 白鳥町の人口の推計..... 2
- (3) 白鳥町の産業（就業者数と事業所数） 5

第2章 分野別計画

- (1) 産業・雇用 6
- (2) 環境・防災・社会基盤 8
- (3) 健康・福祉 9
- (4) 教育・文化・人づくり 10
- (5) 自治・まちづくり 12

第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

- (1) 小さな拠点とネットワークの考え方 13
- (2) エリア設定の考え方 13
- (3) 地域運営の仕組みづくり 14

第4章 白鳥町における小さな拠点とネットワークづくり

- (1) エリアごとの現状 16
- (2) 白鳥町の主な地域活動団体 19
- (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性 20

第1章 基本的事項

(1) 白鳥町の概況

白鳥町は、郡上市の北部に位置し、北は高鷲町及び高山市荘川町に、西は福井県大野市に、東は明宝に、南は大和町に接しており、東西 22.5km、南北 25.0km の L 字状の地形で総面積は 197.43 km²です。高鷲町を源流とした長良川が北から流れ、これに牛道川が合流して南に流れています。また石徹白川は、福井県の九頭竜川に合流して日本海に流れています。これらの河川の流域に耕地と市街地が位置し、白山国立公園や奥長良川県立自然公園を有する自然環境に恵まれた地域です。

本地域の歴史は古く、古代から中世にかけて白山信仰の拠点として隆盛を極め、奥美濃の文化の中心として君臨してきました。養老元年（717 年）、泰澄大師によって白山が開踏され、加賀、越前、美濃の三方に白山信仰の登拝路が拓かれ、美濃側は美濃禅定道と呼ばれています。その美濃側の拠点となったのが長滝一山（長瀧寺、長滝白山神社）美濃馬場で、この地には、平安中期から鎌倉、室町期にかけて、多くの寺院が造営され参拝者で賑わいました。

長滝白山神社・長瀧寺をはじめ、阿弥陀ヶ滝、白山中居神社、いとしろ大杉などの史跡や昭和 52 年に国重要無形民俗文化財に指定された長滝の延年など白山信仰の隆盛を伝える多くの文化財が残されています。また、「白鳥の拝殿踊り」は、毎年夏に神社の拝殿に吊るした切子灯籠の明かりのもとで、下駄を踏み鳴らし、その音で調子を取りながら踊る昔ながらの素朴でどこか懐かしさを感じる踊りであり、約 400 年間踊り唄い継がれてきたと伝えられています。戦後になると、これに太鼓、三味線、笛のお囃子を入れ、街中で屋台を囲んで踊る「白鳥おどり」となり、ゆったりとした曲からテンポが速く躍動的な踊りで、若者をはじめ踊り好きな人々を魅了する奥美濃しろとりの夏の風物詩として、地域の重要な観光資源として踊り唄い継がれています。なお、白鳥の拝殿踊りは平成 13 年に岐阜県の指定文化財となり、平成 15 年には国選択無形民俗文化財となっています。

交通網では、国道 156 号、158 号と長良川鉄道が交差しながら縦貫して基幹路線を形成し、この国道を幹として枝状に県道が伸び、これに市道が連結しています。また、平成 9 年に東海北陸自動車道白鳥 IC が、平成 11 年に中部縦貫自動車道白鳥西 IC が開通し、関東、東海、北陸、関西への広域交通条件が飛躍的に向上しています。なお、中部縦貫自動車道は福井県の大野油坂道路区間で着々と工事が進められています。



六日祭（花奪い）



白山中居神社

(2) 白鳥町の人口の推計

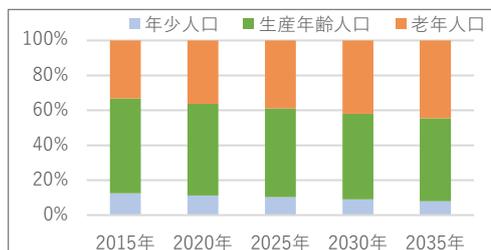
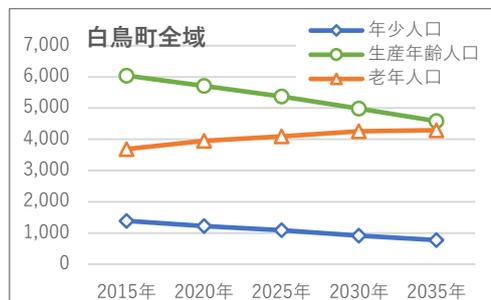
白鳥町全域では、2015年から2035年にかけて人口が減少する予測となっており、中でも年少人口の減少率が高く、その一方老年人口は増加していく予測となっています。

小学校区ごとの人口推移をみると、白鳥小学校区、大中小小学校区、北濃小学校区では、白鳥町全域と似た推移を示していますが、那留小学校区では2035年にかけて年少人口及び生産年齢人口が大きく減少する予測となっています。それに対して石徹白小学校区では、これまでの移住への取り組みの成果もあり、生産年齢人口が増加していく予測となっています。

【3年齢区分（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、老年人口：65歳以上）の人口推移】

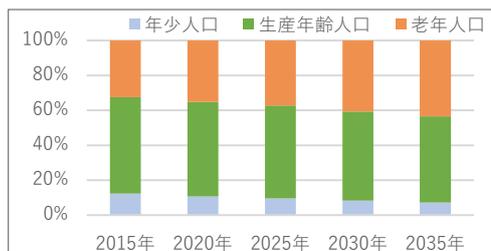
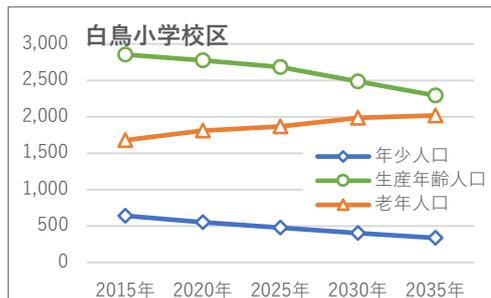
（資料：「将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）データ」）

白鳥町全域	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	1,387	1,216	1,082	913	772 (△44.3)
生産年齢人口	6,040	5,706	5,375	4,983	4,583 (△24.1)
老年人口	3,689	3,953	4,099	4,256	4,292 (16.3)
合計	11,116	10,875	10,556	10,152	9,647 (△13.2)



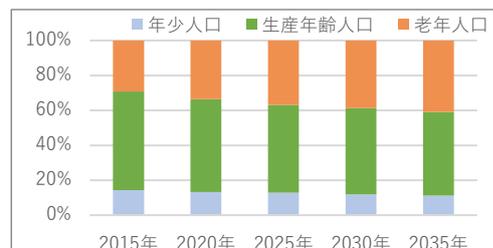
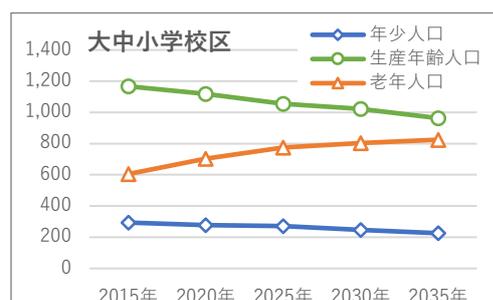
・年少人口及び生産年齢人口が減少する予測であり、特に年少人口の減少が大きい。一方、老年人口は増加する予測。

白鳥小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	641	550	479	402	337 (△47.4)
生産年齢人口	2,854	2,776	2,681	2,485	2,292 (△19.7)
老年人口	1,679	1,808	1,869	1,985	2,018 (20.2)
合計	5,174	5,134	5,029	4,872	4,647 (△10.2)



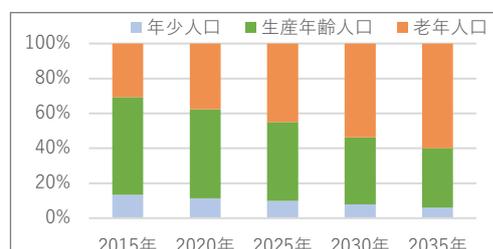
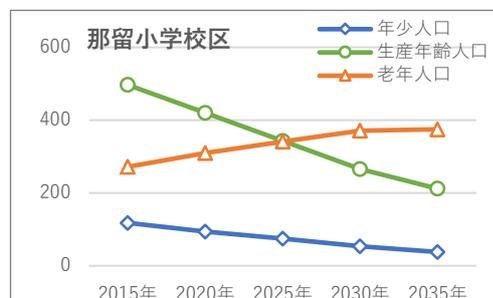
・白鳥町全域と同じような予測となり、年少人口及び生産年齢人口が減少し、特に年少人口の減少が大きい。一方、老年人口は増加する予測。

大中小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	294	278	271	248	226 (△23.1)
生産年齢人口	1,167	1,118	1,056	1,022	963 (△17.5)
老年人口	605	703	774	804	825 (36.4)
合計	2,066	2,099	2,101	2,074	2,014 (△2.5)



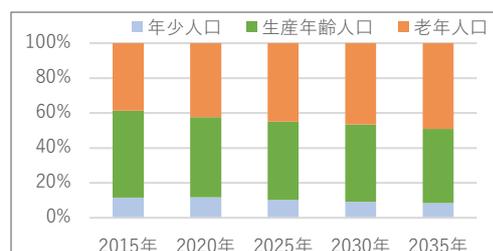
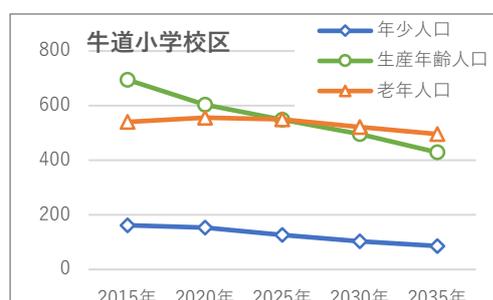
- ・白鳥町全域と比べて年少人口の減少率は低い、老年人口の増加率は2倍以上と高い。
(年少人口 白鳥町全域：△44.3%、大中小学校区：△23.1%)
(老年人口 白鳥町全域：16.3%、大中小学校区：36.4%)

那留小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	118	94	75	54	38 (△67.8)
生産年齢人口	497	420	343	266	212 (△57.3)
老年人口	272	310	341	371	375 (37.9)
合計	887	824	759	691	625 (△29.5)



- ・年少人口及び生産年齢人口の減少が著しく、2015年から2035年までの20年間でいずれも半数以上減る予測。
- ・老年人口は白鳥町全域と比べて増加率が高い。
(老年人口 白鳥町全域：16.3%、那留小学校区：37.9%)

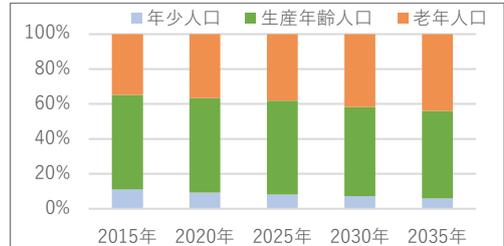
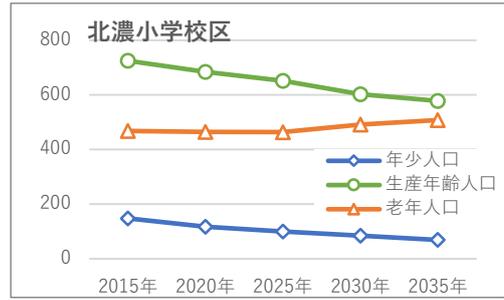
牛道小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	162	154	127	103	86 (△46.9)
生産年齢人口	695	603	549	496	429 (△38.3)
老年人口	540	556	550	522	496 (△8.2)
合計	1,397	1,313	1,226	1,121	1,011 (△27.6)



- ・白鳥町全域よりも生産年齢人口の減少率が高く、老年人口も減少していく予測であるため、合計の減少率も高い。
(生産年齢人口 白鳥町全域：△24.1%、牛道小学校区：△38.3%)
(合計 白鳥町全域：△13.2%、牛道小学校区：27.6%)

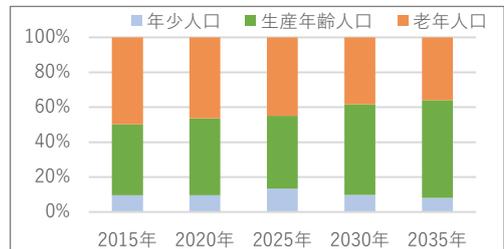
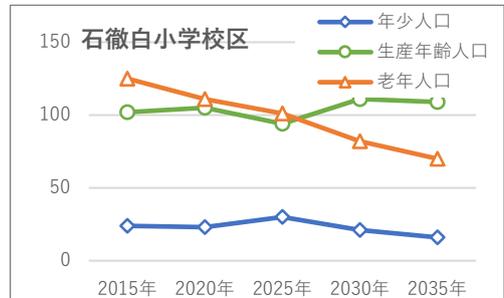
北濃小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	148	117	100	85	69 (△53.4)
生産年齢人口	725	684	652	603	578 (△20.3)
老年人口	468	465	464	492	508 (8.5)
合計	1,341	1,266	1,216	1,180	1,155 (△13.9)

- ・年少人口及の減少が著しく、2015年から2035年までの20年間で半数以上減る予測。



石徹白小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	24	23	30	21	16 (△33.3)
生産年齢人口	102	105	94	111	109 (6.9)
老年人口	125	111	101	82	70 (△44.0)
合計	251	239	225	214	195 (△22.3)

- ・老年人口の減少が著しく、2015年から2035年までの20年間で半数程度減る予測。
- ・白鳥町内において唯一生産年齢人口の増加が予測されている。



(3) 白鳥町の産業（就業者数と事業所数）

白鳥町全体では、住民の就業者数に対して地区内事業所の従業者数の割合が84.0%となっており、一定数が白鳥町外で就業していると読み取れます。小学校区ごとでみると地区内事業所の従業者数の産業別割合では、白鳥小学校区及び石徹白小学校区において第3次産業の割合が高く、大中小学校区では第2次産業の割合が高くなっています。また、牛道小学校区では、住民の就業者数に対し、地区内事業所の従業者数は少なく、住民の多くが地区外で就業していることが読み取れ、石徹白小学校区では地区外からの就業者が一定数いることが読み取れます。

【就業者数及び事業所数の状況】

（資料：①総務省・国勢調査（2015年）、②③経済産業省・経済センサス（2016年））

	項目	人数・事業所数	産業別割合		
			第1次産業	第2次産業	第3次産業
白鳥町全体	① 住民の就業者数（人）	5,746	5.66%	33.43%	60.91%
	② 地区内の事業所数（事業所）	683	1.02%	30.89%	68.09%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	4,824	1.10%	37.85%	61.05%
白鳥小学校区	① 住民の就業者数（人）	2,718	3.16%	32.45%	64.39%
	② 地区内の事業所数（事業所）	399	0.25%	22.06%	77.69%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	2,757	0.07%	24.70%	75.23%
大中小学校区	① 住民の就業者数（人）	1,085	5.25%	36.13%	58.62%
	② 地区内の事業所数（事業所）	109	1.83%	43.12%	55.05%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	1,077	0.84%	68.34%	30.82%
那留小学校区	① 住民の就業者数（人）	451	5.99%	34.59%	59.42%
	② 地区内の事業所数（事業所）	34	0.00%	50.00%	50.00%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	237	0.00%	49.37%	50.63%
牛道小学校区	① 住民の就業者数（人）	692	11.56%	30.78%	57.66%
	② 地区内の事業所数（事業所）	59	1.69%	38.98%	59.33%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	267	3.37%	43.07%	53.56%
北濃小学校区	① 住民の就業者数（人）	688	7.27%	37.50%	55.23%
	② 地区内の事業所数（事業所）	64	3.13%	51.56%	45.31%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	338	9.47%	46.45%	44.08%
石徹白小学校区	① 住民の就業者数（人）	112	22.32%	17.86%	59.82%
	② 地区内の事業所数（事業所）	18	5.56%	16.67%	77.77%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	148	0.68%	13.51%	85.81%

第2章 分野別計画

【まちづくりの方向性】

**地域資源を活用し 市民協働による いつまでも住み続けたいと思う
地域づくりを進めます**

～白山文化の里しろとり～

(1) 産業・雇用

【現状と課題】

東海北陸自動車道の白鳥 IC から飛騨清見 IC までの四車線化が平成 31 年 3 月に完了し、中部縦貫自動車道の整備が福井県内で進められています。白鳥町は中京圏から北陸圏への人、物、情報、防災のゲートウェイとして、郡上市合併記念公園などの利用をはじめ白鳥町への集客などにおいて周辺施設は可能性を秘めています。通過点となる恐れがあることから、目的地となるような観光イベント情報の提供が必要です。中部縦貫自動車道については、すでに福井県側で永平寺大野道路区間が供用開始され、大野 IC～和泉 IC(仮称)区間が令和 4 年に開通予定であり、和泉 IC(仮称)～油坂出入口(仮称)区間が令和 8 年に開通予定となっています。

こうしたことを背景として、東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道の結節点となる白鳥 IC 周辺の道の駅の機能強化を図り、道の駅を地域の魅力発信の場とするとともに、道の駅を活用した地域の農産物や特産物の販売促進強化を図ることが必要です。

また白鳥おどりは、奥美濃しろとりの夏の風物詩として踊り唄い継がれてきた伝統文化であり、重要な観光資源となっています。来場者は、過去の最盛期ほどの賑わいはありませんが、近年は増加傾向であり、来場者に良い雰囲気の中で快適におどりを楽しんでもらえる環境づくりを一層進める必要があります。

農業についても、その他の地域と同様に農業従事者の後継者不足や農業離れにより農業従事者が年々減少傾向にあり、遊休農地や鳥獣害の増加につながることで地域全体の活力にも悪影響を与えています。農業を活性化するためには、農家の所得を上げることが重要であり、地域の特色を活かした農産物のブランド化や特産品開発などによる 6 次産業化の取り組みが必要です。

【目指す将来像】

地域資源を活かした活力ある産業、観光振興と安定した雇用を創出するまち

施策 1		交通結節点を活用したヒト・物・情報の交流
主な取り組み		
1-①	広域防災拠点・物流拠点としての機能向上	<ul style="list-style-type: none"> 広域防災拠点の郡上市合併記念公園へのアクセス道の整備 広域防災拠点施設等への再生可能エネルギーの導入検討 広域物流拠点整備に向けた需要調査と導入検討
1-②	交通結節点としての機能向上	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路網と道の駅を活用した地域の農産物・特産物の販売促進 地域情報発信の推進 石徹白地区と福井県とのアクセス道の改良促進

施策 2		白鳥おどりの環境整備
主な取り組み		
2-①	環境整備	<ul style="list-style-type: none">・おどり開催時に使用できるトイレの整備、休憩場所の確保・切子灯籠などのおどり会場の装飾の整備支援

施策 3		農産物のブランド化による農業振興
主な取り組み		
3-①	ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none">・ブランド作物の策定及び作付け推進・特産品の開発支援
3-②	販路拡大	<ul style="list-style-type: none">・地産地消の推進

(2) 環境・防災・社会基盤

【現状と課題】

東海北陸自動車道の白鳥 IC と中部縦貫自動車道の白鳥西 IC から岐阜県広域防災拠点に指定されている郡上市合併記念公園へアクセスする市道は、道路が狭く大型の緊急車両等が通行し難いため、道路拡幅等の改良が必要です。

白鳥町では、18の自治会に自主防災組織と消防団が組織されており、火災や災害に備えた訓練を行っています。自主防災組織は主に災害時の要支援者等の避難誘導や避難所開設と運営を担っていますが、自治会役員が自主防災組織の役員を兼ねていることが多いため、自治会の任期に合わせて交代されることが多く、引継ぎが上手くなされないことがあります。訓練内容がマンネリ化していることや、避難訓練の参加者が少ないため、住民の防災意識向上に向けた対策が必須となっています。さらに、自治会内に指定避難所が無い地区があるため、自主防災組織同士の協力と連携が必要です。

また、消防団は自治会単位で部が組織されていますが、多くの地区では人口減少と少子高齢化に伴う消防団員の減少が進むと予想されており、若い消防団員の加入促進対策と、部をまとめる分団での防災力の強化が必要です。

【目指す将来像】

防災組織等の連携による地域防災力の高いまち

施策 1		地域の事情に合った防災力の強化
主な取り組み		
1-①	自主防災組織と消防団の連携	・山や河川等の自然地形を考慮した避難計画を作成し、自主防災組織と消防団との連携による地域防災力の向上
1-②	防災組織の意識と知識・技能の修得	・自主防災組織に対する防災士修得の促進 ・自主防災組織の役員に防災士と消防団 OB の活用推進
施策 2		消防団の活動継続に向けた取り組み
主な取り組み		
2-①	将来の消防団員の確保	・将来の消防団員確保の推進のため、小中学生を対象とした消防団啓発活動の実施
2-②	消防団経験者の活用	・消防団活動や団員の加入促進に対する消防団 OB への協力依頼
施策 3		広域防災拠点を活用した防災力の向上
主な取り組み		
3-①	広域防災拠点へのアクセス道整備	・災害に強い周辺市道の整備による防災拠点の機能向上

(3) 健康・福祉

【現状と課題】

少子高齢化、核家族化などによる地域社会の急激な変化により、住民同士のつながりが希薄化し、地域福祉のあり方はこれまで以上に大きく変わってきています。白鳥町の高齢者人口は、令和2年12月で3,669人、高齢化率は34.7%となっています。また高齢者のみの世帯数は1,124世帯と全体の29.1%で、今後も団塊の世代が後期高齢期を迎えるなど、ますます高齢化が進行していきます。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送るには、日常生活支援や介護予防の充実、地域の見守り体制づくりなど、それぞれの生活ニーズに応じた整備が求められています。

また、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加、新型コロナウイルス感染症の不安から、閉じこもりがちになる事で、今後、認知症高齢者の増加が見込まれ、日頃からの声かけや見守りなど地域でこれまで以上に「人と人とのつながりや支え合いを強めていくこと」が必要となります。

高齢者が健康で生きがいのある生活を営むには、いきいき教室やサロン活動などの介護予防に向けた取り組みや、シニアクラブ活動などによる生きがいづくりの支援が必要です。

【目指す将来像】

健康で生きがいを持ち、いきいきとした暮らしのできるまち

施策1		地域支え合い体制づくりの推進
主な取り組み		
1-①	通いの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体による、高齢者の介護予防の取り組みや心配事の相談、多世代がふれあいの場となるサロン活動の場づくりを進め、地域の支え合いを強化 ・シニアクラブ活動への支援

(4) 教育・文化・人づくり

【現状と課題】

白鳥町は、長良川の源流域に位置する豊かな自然に恵まれた地域で、美濃側から白山への登拝路である美濃禪定道の入口として白山信仰とともに栄えてきました。特に長滝地区から石徹白地区にかけての北部地域は、長滝白山神社・長瀧寺をはじめ、阿弥陀ヶ滝、白山中居神社、いとしろ大杉など美濃の白山信仰にまつわる見どころや、信仰の隆盛を伝える多くの文化財、毎年1月6日に長滝白山神社で行われる六日祭における長滝の延年、白山中居神社の巫女神楽である五段の神楽など、今なお白山への信仰に根差した文化が息づいており、白山ユネスコエコパークのエリアにも含まれています。また、各神社で春・秋に行われる祭礼芸能や、毎年夏に貴船神社・白鳥神社などで拝殿に吊るした切子灯籠の明かりのもとで踊る「白鳥の拝殿踊り」も歴史を感じる地域の風物詩となっています。

白鳥おどりの保存伝承を目的に結成された白鳥おどり保存会は、市民や観光客に楽しく踊ってもらえるよう、お囃子の生演奏にあわせて踊り子が白鳥おどりを披露する活動を行っており、白鳥おどりの開催や保存伝承において重要な組織となっています。しかし、少子高齢化や社会生活の変化に伴う伝統文化に対する意識の希薄化などによって会員の減少が危惧され、後継者の育成が課題となっています。近年は、白鳥おどりに興味をもつ若い世代が増加し、保存会に加入する方も現れていますが、この状況を継続・拡大していくためにはジュニア世代の後継者をいかに育成していくかが重要であり、小学校から高校までを通して白鳥おどりに親しむことができる場の創出が求められています。

このように、地域に深い関わりをもつ歴史的遺産や自然、伝統文化を地域資源として継承・保存しつつ、認知度を高め、交流人口の増加を図ることで地域の振興につなげていくことが必要です。

白山信仰の歴史・文化を色濃く伝えるこうした特色ある地域の魅力を発信し、より多くの人に周遊していただくことを目的に、「くくるをめぐる」をコンセプトにパンフレットや動画の制作を行ってきました。今後は白山文化博物館や白山瀧宝殿などの施設を地域周遊の拠点として整備・活用しつつ、さらなる地域資源の掘り起こしと白山信仰の魅力の効果的な発信に取り組む必要があります。また、これらの白鳥町の特色ある文化を小中学生及び高校生の頃からふるさと学習で学び、地域に根付いた人材育成を図り、関係団体と協力して課題を解決していくシステムが必要です。

【目指す将来像】

白山文化に係る歴史・文化と豊かな自然や伝統文化を活かした持続可能な営みを学び体感できるまち

施策 1		伝統文化の継承・保存活用
主な取り組み		
1-①	伝統文化の継承支援	・学校教育を通じた伝統芸能の継承や芸能を発表する場づくりの推進
1-②	保存会の後継者の育成	・ジュニアクラブの育成・支援 ・楽器、衣装などの整備支援

施策2		白山文化の活用
主な取り組み		
2-①	白鳥北部地域の振興	<ul style="list-style-type: none">・白山文化に関する情報の地域内外への効果的な発信や観光ガイドの養成等の支援・白鳥北部地域の自然や文化とウォーキングを組み合わせた魅力発信、健康づくりの推進
2-②	白山文化博物館の強化	<ul style="list-style-type: none">・博物館周辺にある清流長良川あゆパークと白山瀧宝殿との連携による受入体制の拡大

(5) 自治・まちづくり

【現状と課題】

白鳥町には18の自治会があり、それぞれの特色や地域資源を活用したコミュニティ活動を行っています。しかし、各地域においては、人口減少や少子高齢化によるコミュニティ活動の停滞などが危惧されており、これまで以上に地域住民のつながりを深め、交流を活性化する取り組みが必要です。

また、小さな拠点とネットワークの考えのもと、いつまでも住み続けたいと思うまちを目指し、協働による解決型まちづくりに取り組む必要があります。

地域づくりの担い手の確保も必要であり、進学などにより若い世代が市外へ転出していくことはやむを得ない面もありますが、将来を見据えて地域に親しみをもってもらい、地元で働き、住み続けたいと感じるまちになるようなシビックプライド※を醸成するため、地域住民や教育関係、地元企業と連携した取り組みや若い世代のまちづくり活動への参画が求められています。

※シビックプライド：「地域をより良いところするために自分自身が関わっている」という当事者意識や自負心のことをいいます。

【目指す将来像】

いつまでも住み続けたいと思うまち

施策 1		市民協働のまちづくりの推進
主な取り組み		
1-①	まちづくり団体の育成、支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化のため活動している団体への支援 ・地域おこし協力隊の派遣等による人材の育成、まちづくり団体への支援
施策 2		若い世代の担い手づくり
主な取り組み		
2-①	シビックプライドの醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土愛を高める活動の推進 ・地域活動の情報発信

第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

(1) 小さな拠点とネットワークの考え方

市内には多くの自治会（地区）がありますが、世帯数が50を割るなど、少子高齢化により自治会規模の縮小が進んでいるところも少なくありません。こうした自治会（地区）では、地域住民の安全・安心な暮らしを確保することや祭礼などの伝統行事を維持・継承することのほか自治会共同作業を継続して行っていくことが、今後はより困難になっていくと考えられます。

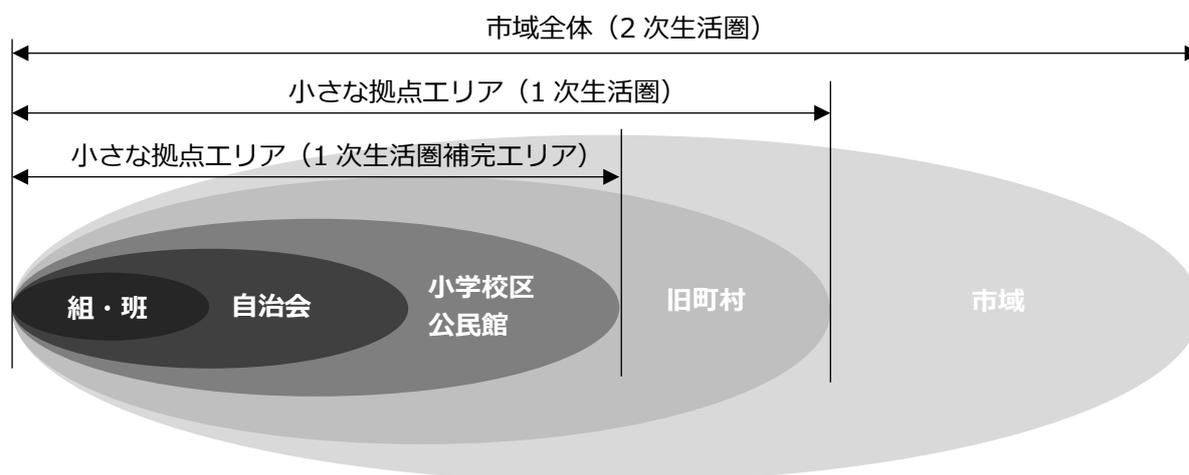
郡上市の人口推移の見通しから、高齢者の割合はますます増加していきませんが、地域活動の担い手となる生産年齢人口の割合はさらに減少していきます。このため、地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）において日常の生活を支える機能を集約し、交通、人、情報など様々なネットワークでつなぐ「小さな拠点とネットワーク」の形成と、地域運営組織の構築が急務となっています。

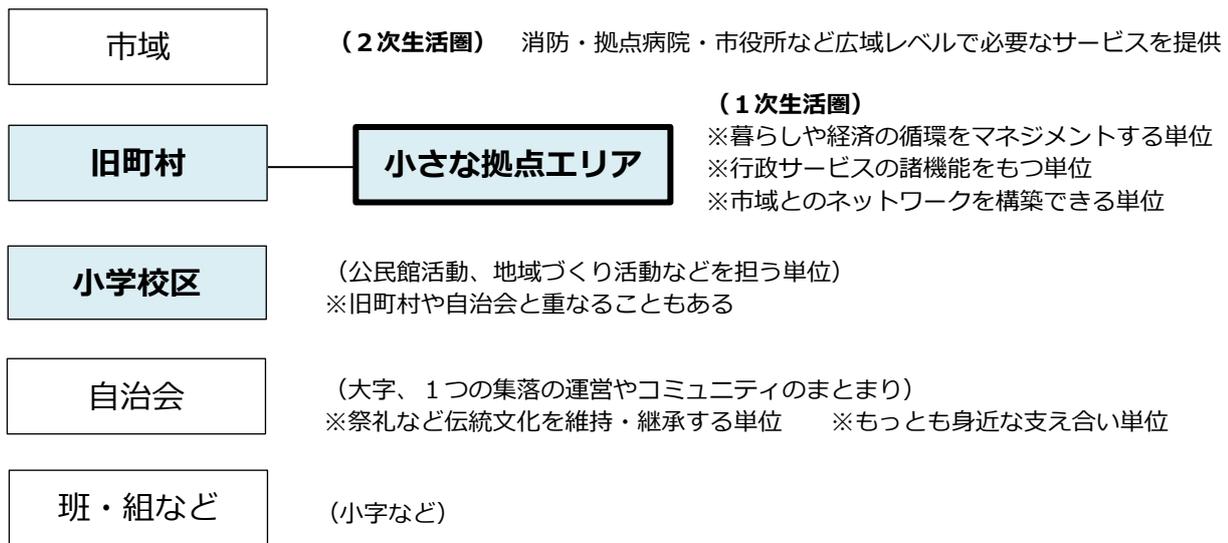
市内には、すでに「小さな拠点とネットワーク」によって地域課題の解決に取り組んでいる地区がいくつかあります。まずはこれらの地区を「モデル地区」として積極的に支援し、地域の実情に合った取り組みを進めながら全市に広げていきたいと考えています。

(2) エリア設定の考え方

地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）の設定については、もっとも身近な支え合いが可能となる最小単位のコミュニティや、祭礼などの伝統文化を維持・継承する集落、そして歴史的、文化的経緯を共有できる範囲を考慮する必要があります。市内には班や組、地区会、自治会がありますが、最小の単位を班や組、最大単位を市域（郡上市全域）として捉えた場合に、「小さな拠点エリア」をどのように設定し、設定したエリアの中で「生活拠点」をどのように配置するのか、また生活に必要なサービス等をどのように確保していくのか検討していく必要があります。

郡上市では、こうした考え方のもと、行政サービスの諸機能を有し、市域とのネットワークを構築できる旧町村単位（1次生活圏）を「小さな拠点エリア」と設定しております。ただし、八幡町及び白鳥町については、小学校区を基本とした比較的小規模な単位を、生活や地域コミュニティの形成に最低限必要な一定の機能を有している「小さな拠点エリア」の中にあるサブエリア（1次生活圏補完エリア）として位置付けています。また広域レベルで必要なサービスを提供する消防、拠点病院、市役所などの機能は、2次生活圏として市域全体の中心拠点となる八幡町の市街地エリアに位置付けています。





(3) 地域運営の仕組みづくり

人口減少や少子高齢化が進む中において、地域コミュニティの維持をはじめ、地域で必要な生活サービス等を受け続けられる環境を維持していくためには、住民自らが地域内の課題を自分事として捉え、地域の資金や人材を有効に活用しつつ、住民が主体となって地域での暮らしを支える活動を行うという「住民主体」が基本となります。本計画にある行政が行う施策だけでは解決が困難な地域課題等に対し、今後、住民主体の地域計画（以下「地域運営プラン」という。）を作成し、それを協議、実行していく「地域運営組織」の形成を進めていく必要があります。

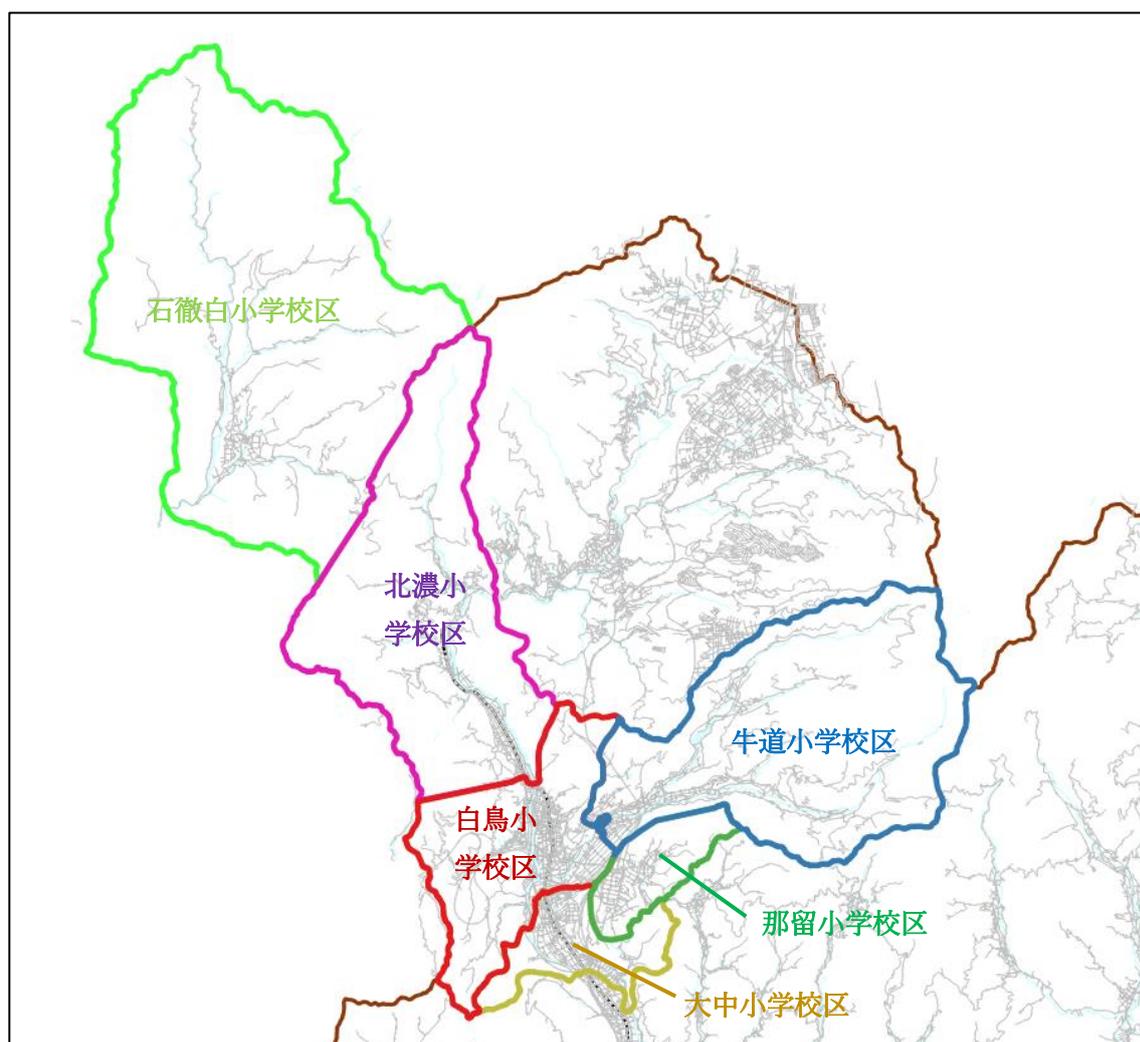
「地域運営プラン」や「地域運営組織」を形成していくには、地域の現状を把握し、課題解決に向けた議論や検討が必要となるため、地域の現状を「小さな拠点とネットワーク」（生活拠点として日々の暮らしに必要な機能）という観点から第4章にまとめています。

なお、郡上市では「小さな拠点エリア」を旧町村単位としておりますが、もっとも身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区として捉え、サブエリアの位置づけのない地域（八幡町、白鳥町以外）についても、小学校区ごとに地域の現状を記載します。

第4章 白鳥町における小さな拠点とネットワークづくり

白鳥町は町全体を1つの小さな拠点エリアとしていますが、小学校区を基本とした比較的小規模な単位を、生活や地域コミュニティの形成に最低限必要な一定の機能を有するサブエリアとしており、白鳥エリア、牛道エリア、北濃エリア、石徹白エリアの4つに分けて設定しています。

なお、小学校区は、白鳥小学校区、大中小学校区、牛道小学校区、那留小学校区、北濃小学校区、石徹白小学校区の6つの校区に分かれており、本章では最も身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区と捉え、小学校区ごとに地域の現状を記載します。



(1) エリアごとの現状

【白鳥エリア】(白鳥小学校区)	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○スーパー等の生活必需品の販売店、金融機関、郵便局、ガソリンスタンド、飲食店等が複数あり、国道沿いに多数のコンビニがあります。 ○校区内で生活に必要な様々なことが完結でき、他地域からも買い物客等が訪れています。
公共施設	○郡上市役所白鳥庁舎、白鳥小学校、白鳥中学校、郡上北高等学校、白鳥ふれあい創造館(白鳥公民館)、郡上市図書館、白鳥文化ホール、白鳥体育館、白鳥格技場、郡上北消防署、道の駅清流の里しろとり、郡上市合併記念公園(白鳥第2体育館)
医療・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関は国保白鳥病院のほか、民間の病院・医院が4つあります。老人福祉施設では、特別養護老人ホームが2つありますが、介護の人手不足により定員に満たない入所施設もあります。また障がい者施設として、郡上市北部子ども発達支援センターたんぽぽ、ぶなの木学園などがあります。 ○これらの医療・福祉施設には、校区内外をはじめエリア内外からも多くの利用があります。
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○長良川鉄道的美濃白鳥駅があり、高校生の通学の拠点となっているほか、白鳥交通の運行する郡上八幡白鳥線、郡上八幡万場線、白鳥ひるがの線、石徹白線の結節点となっています。 ○白鳥交通の白鳥デマンドバスが、日・祝日、年始を除き阿多岐・六ノ里ルート1日6便、大間見・干田野ルート1日4便運行しているほか、石徹白線が1日3便運行しています。
校区の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○白鳥地区では、毎年白鳥神社において大神楽が奉納されていますが、為真地区、越佐地区、向小駄良地区においては不定期となっています。 ○東海北陸自動車道及び中部縦貫自動車道のインターチェンジがあり、岐阜方面及び高山方面、福井方面へと結ぶ交通の要衝となっています。 ○白鳥町の中心に位置していることから、病院の受診、買い物や行政手続き等を行うため、近隣地区からの往来があります。

【白鳥エリア】(大中小学校区)	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○国道沿いにガソリンスタンドや個人の小規模小売店がありますが、金融機関やスーパーはありません。 ○日用品等の購入は、校区内のホームセンター及び市街地の店舗、または大和町のショッピングセンター等を利用しています。
公共施設	○大中農村総合センター(大中公民館)、大中小学校
医療・福祉施設	○校区内に医療施設等はなく、市街地の施設を利用しています。
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○長良川鉄道が大中小学校区の中心部を南北に走り、校区内には大島駅、大中駅の2つの駅があります。 ○白鳥交通の郡上八幡白鳥線が、国道156号を八幡方面行きは平日11便、休日6便、白鳥方面行きは平日9便、休日6便運行しています。また郡上八幡万場線が、西方の県道を八幡方面行きは平日2便、休日3便、白鳥方面行きは平日4便、休日3便運行しています。
校区の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○大島地区では古くから稲作が盛んで、当地区で作られる米は大島米と呼ばれています。 ○校区内を国道156号のほか主要地方道白鳥板取線が通っており、大島工業団地及び勝光島工業団地が立地しています。 ○観光施設として、大島地区の長良川には観光ヤナがあり、天然鮎やバーベキュー、ジビエ料理を楽しむことができます。 ○各地区の神社では、不定期で大神楽を奉納しており、中津屋では嘉喜踊も行われています。

【白鳥エリア】（那留小学校区）	
校区の商店等	○校区内に金融機関、郵便局、ガソリンスタンドや、日用品等を扱う店舗やコンビニはありません。 ○多くの方が日用品等の購入に白鳥地区及び為真地区内のスーパー等や大和町のショッピングセンターを利用しています。
公共施設	○那留農業技術研修センター（那留公民館）、那留小学校
医療・福祉施設	○介護付き有料老人ホームが1つありますが、医療施設はありません。 ○医療施設がないため、多くの方が市街地の施設を利用しています。
公共交通の状況	○白鳥交通の白鳥デマンドバスが、日・祝日、年始を除き1日4便運行しています。
校区の特性	○校区内の温泉施設は憩いの場となっており、また大手製材工場が立地し、雇用の場になっています。 ○白山神社では、不定期で大神楽が奉納されており、丸山公園にある神明神社では、毎年8月に丸山縁日踊りが行われています。

【牛道エリア】（牛道小学校区）	
校区の商店等	○牛道小学校付近にガソリンスタンドと金融機関のATM、郵便局がありますが、日用品等を購入する店舗やコンビニはありません。 ○日用品等の買い物には白鳥地区及び為真地区内のスーパー等を利用しています。
公共施設	○道の駅白尾ふれあいパーク、牛道生活改善センター（牛道公民館）、牛道小学校
医療・福祉施設	○クリニックが1つ、デイサービスセンターが1つあります。 ○校区内の施設のほか、市街地の施設を利用しています。
公共交通の状況	○白鳥交通の白鳥デマンドバスが、日・祝日、年始を除き1日6便運行しています。
校区の特性	○阿多岐地区では、平成28年3月より農業水路において小水力発電に取り組んでいます。 ○六ノ里地区では、ぎふの棚田21選に選ばれた棚田があり、田んぼアートを描くプロジェクトが現在も続いています。また、平成30年6月に六ノ里地域づくり協議会が発足し、地域課題の解決に向けて活動しています。 ○各地区の神社では、不定期で大神楽を奉納しており、六ノ里地区では嘉喜踊も行われています。 ○明治30年に野添村、六ノ里村、陰地村、那留村が合併し牛道村となりました。現在は校区が分かれています。牛道地区と那留地区は今も深いつながりを有しています。

【北濃エリア】（北濃小学校区）	
校区の商店等	○長滝地区に金融機関のATM、郵便局があり、歩岐島地区にはガソリンスタンドがありますが、両地区とも日用品等を扱う店舗やコンビニはありません。 ○国道156号が通っておりアクセスが良好であるため、多くの方が白鳥地区及び為真地区内のスーパー等を利用しています。
公共施設	○北濃保育園、北濃公民館、道の駅白山文化の里長滝、清流長良川あゆパーク、白山文化博物館、白山龍宝殿、北濃小学校
医療・福祉施設	○デイサービスセンターが1つありますが、医療施設はありません。 ○地域住民がデイサービスセンターを利用していますが、医療施設については、多くの方が市街地の病院を利用しています。
公共交通の状況	○国道156号に沿って長良川鉄道が走り、校区内には北濃駅、白山長滝駅、白鳥高原駅の3つの駅があります。 ○白鳥交通の白鳥ひるがの線が、国道156号を平日12便、休日8便運行し、美濃白鳥駅と高鷲町ひるがの地区間を結んでいます。 ○白鳥交通の白鳥デマンドバスが、日・祝日、年始を除き1日4便運行しているほか、石徹白線が1日3便運行しています。

【北濃エリア】（北濃小学校区）	
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> ○前谷地区の正ヶ洞には、日本の棚田 100 選に選ばれた棚田があり、地域住民等により保存されています。 ○長滝地区には、長滝白山神社をはじめ多くの白山信仰の歴史・文化にまつわる重要文化財があり、特に長滝白山神社の長滝の延年（六日祭）、でででん祭りには多くの人が訪れています。また各地区の神社では不定期で大神楽を奉納しています。

【石徹白エリア】（石徹白小学校区）	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○郵便局、ガソリンスタンドは校区の中心部にありますが、日用品等を扱う店舗や金融機関はありません。 ○多くの方が白鳥地区及び為真地区内のスーパー等を利用しています。
公共施設	○石徹白小学校、石徹白保育園（小学校に併設）、石徹白保健センター（市役所出張所、診療所、石徹白デイサービスセンターを複合化した施設）、石徹白農村センター（石徹白公民館）
医療・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ○石徹白保健センターにおいてデイサービス事業を行っているほか、週 1 回の診療所が開設されています。 ○石徹白保健センターのほかに、市街地の医療施設を利用しています。
公共交通の状況	○白鳥交通の石徹白線が、日・祝日、年始を除き 1 日 3 便市街地まで運行しています。
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> ○石徹白地区は、昭和 33 年 10 月に福井県から越県合併して白鳥町に編入となりました。上在所、中在所、西在所、下在所の 4 組から成る集落で、古くは白山信仰の里として栄え、登拝拠点である美濃馬場（長滝白山神社、他に越前、加賀馬場がある）から白山に至る登拝道（美濃禅定道）沿いに位置しています。 ○標高の高さを活かし、夏季にはとうもろこしの栽培が盛んに行われ、冬季には豊富な積雪を誇る 2 つのスキー場が多くのスキー客で賑わいます。 ○国特別天然記念物である石徹白のスギ（いとしろ大杉）、国重要文化財の銅造虚空蔵菩薩座像のほか、白山中居神社や大師堂には多くの文化財が残されており、白山中居神社において五段の神楽が奉納されています。 ○平成 19 年に農業用水を利用した小水力発電への取り組みが始まり、平成 26 年には発電所の建設のため石徹白の集落のほぼ全戸が出資した石徹白農業用水農業協同組合が設立されています。また建設された石徹白番場清流発電所では、平成 28 年から発電が開始されています。 ○NPO 法人やすらぎの里いとしろ、石徹白地区地域づくり協議会など地域活動に積極的に取り組む団体があり、石徹白地区への移住者が増え始めています。

(2) 白鳥町の主な地域活動団体

分野	地域活動団体
産業・雇用	郡上市商工会白鳥支部 白鳥観光協会
健康・福祉	白鳥地区社会福祉協議会 郡上市シニアクラブ連合会白鳥支部 白鳥町民生委員児童委員協議会
環境・防災・社会基盤	郡上市消防団白鳥方面隊 郡上市防災士会
教育・文化・人づくり	白鳥地域公民館 白鳥公民館 大中公民館 牛道公民館 那留公民館 北濃公民館 石徹白公民館 白鳥町文化協会 白鳥町文化財保護協会 青少年育成白鳥地域会議 郡上市スポーツ推進委員白鳥地域部 牛道小学校学校運営協議会 那留小学校学校運営協議会 白鳥小学校学校運営協議会 大中小学校学校運営協議会 北濃小学校学校運営協議会 石徹白小学校学校運営協議会 白鳥中学校学校運営協議会 NPO 法人郡上市放課後児童クラブ（白鳥放課後児童クラブ） 郡上市子ども会育成協議会白鳥支部
自治・まちづくり	郡上市自治会連合会白鳥支部 白鳥地域協議会 六ノ里地域づくり協議会 石徹白地区地域づくり協議会 NPO 法人やすらぎの里いとしろ

(3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性

小さな拠点とネットワークを形成していくには、地域住民が主体となって地域を運営していく地域運営組織の形成が必要となります。白鳥町は町全体を1つの小さな拠点エリアとしていますが、小学校区を基本とした比較的小規模な単位をサブエリアとしており、白鳥エリア、牛道エリア、北濃エリア、石徹白エリアの4つに分けて設定しています。

石徹白エリアには、石徹白地区地域づくり協議会が持続可能な地域を目指して活動しており、また牛道エリアでは六ノ里地域づくり協議会が小さな拠点とネットワークの形成を目指して地区での話し合いをはじめています。今後は、既存のまちづくり団体の取り組みを支援しながら、地域運営組織を確立していく必要があります。

その一方で白鳥エリア、北濃エリアにはまちづくり団体が無いため、今後は自治会や公民館等の既存組織の役割や機能を点検し、整理を行いながら地域運営組織を構築していく必要があります。

また各エリアを超えた白鳥町全体の方向性については、白鳥地域協議会が主体となって検討及び協議をしていきます。

◆白鳥町内の小さな拠点とネットワークに向けた活動例

サブエリアの一つである石徹白エリアは、石徹白自治会が地区の各種団体に働きかけを行い、平成19年に「石徹白地区地域づくり協議会」を設立されました。

平成21年には「将来にわたっても石徹白小学校を残す！」をスローガンとした「石徹白ビジョン」を策定され、「石徹白ファンづくり」「産業・雇用の創出」「定住促進」を活動の3本柱と位置づけて、農業用水を利用した小水力発電、地元食材を活かした食品加工販売、民泊受入れ、移住・定住の促進、高齢者の買い物等外出支援などの活動が行われてきました。

こうした取り組みにより移住者の増加や集落営農の開始などの成果が現れていますが、高齢化による担い手不足や地域経済の疲弊など、まだまだ課題は山積しています。このため、新たな展開として、「私たちが何をするのか」という視点で組織のあり方も含めて今後の地域づくりの方針を地区全体で共有し、行動していく取り組みが始まっています。

また、白鳥地域協議会では、白鳥町内の地域づくり団体等のネットワーク化を図り、自治会活動等をサポートする動きに結び付けることで、各地区において地域運営組織の立ち上げを目指す取り組みも計画されています。